



平成31年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成30年11月13日

上場会社名 株式会社 オーシャンシステム
 コード番号 3096 URL <http://www.ocean-system.com>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 樋口 勝人

問合せ先責任者 (役職名) 取締役兼執行役員社長室長 (氏名) 山田 秀樹

TEL 0256-33-3987

四半期報告書提出予定日 平成30年11月13日

配当支払開始予定日

平成30年12月3日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成31年3月期第2四半期の連結業績(平成30年4月1日～平成30年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
31年3月期第2四半期	28,359	11.9	510	19.7	550	18.5	316	14.8
30年3月期第2四半期	25,346	2.5	426	2.7	464	0.3	275	4.5

(注) 包括利益 31年3月期第2四半期 350百万円 (18.9%) 30年3月期第2四半期 294百万円 (3.5%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
31年3月期第2四半期	32.12	
30年3月期第2四半期	27.97	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
31年3月期第2四半期	16,622	6,837	41.1	694.63
30年3月期	16,772	6,543	39.0	664.72

(参考) 自己資本 31年3月期第2四半期 6,837百万円 30年3月期 6,543百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
30年3月期		6.00		6.00	12.00
31年3月期		6.00			
31年3月期(予想)				6.00	12.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成31年3月期の連結業績予想(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	57,500	10.6	1,150	26.3	1,200	21.3	610	21.2	61.97

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	31年3月期2Q	10,833,000 株	30年3月期	10,833,000 株
期末自己株式数	31年3月期2Q	989,121 株	30年3月期	989,121 株
期中平均株式数(四半期累計)	31年3月期2Q	9,843,879 株	30年3月期2Q	9,843,879 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.3「1.当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(追加情報)	9
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、内需の持ち直しを受け企業収益は堅調を維持しているものの、記録的な豪雨や台風、地震などの自然災害による地域経済への影響が一部見られ、また、海外においても米国の通商保護主義への傾斜から米中間の貿易戦争は激しさを増すなど景気の先行きは依然として不安定な状況が続いております。

食品業界におきましても、人材確保と人件費の上昇が大きな経営課題となっており、食料品やガソリン等の価格上昇による消費者の節約志向の高まりや、ネット販売の需要拡大及び異業種からの参入により競争が激化するなど、依然として厳しい状況が続いております。

このような状況の下、当社グループはお客様第一を念頭に置き、付加価値のある商品提供に注力し、食の安全・安心への取り組みを継続することにより企業価値の向上に努めてまいりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は283億59百万円（前年同期比11.9%増）、営業利益は5億10百万円（前年同期比19.7%増）、経常利益は5億50百万円（前年同期比18.5%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は3億16百万円（前年同期比14.8%増）となりました。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

(スーパーマーケット事業)

スーパーマーケット事業につきましては、一部店舗では競合店の進出による影響が見られ、また、猛暑の影響により夏場の集客は落ち込んだものの、鮮魚等の対面販売や業務用食品を取扱っている当社の特色を活かした販売強化に努めたことと、主力商品の重点販売を行ったことにより客数は前年並みに回復しました。しかしながら社会保険適用拡大を始めとする制度変更の影響から人件費は増加し、セグメント利益は前年同期に比べ減少しました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間のセグメント売上高は113億35百万円（前年同期比0.6%増）、セグメント利益は2億3百万円（前年同期比19.1%減）となりました。

(業務スーパー事業)

業務スーパー事業につきましては、子会社である㈱カワサキが9月に10店舗目となる「業務スーパー守谷店」（茨城県守谷市）をオープンし、営業エリアの拡大を図りました。

また、飲食店へのポスティング活動や折り込みチラシなど新規顧客の開拓を継続して行ったことと、フランチャイザーである㈱神戸物産が9月に「業務スーパー×神戸物産 総力祭」のキャンペーンを行った効果もあり、既存店の売上高は前年同期に比べ増加しました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間のセグメント売上高は104億60百万円（前年同期比36.9%増）、セグメント利益は2億56百万円（前年同期比26.7%増）となりました。

(弁当給食事業)

弁当給食事業につきましては、千葉工場における惣菜等の受託量及び事業所向け宅配弁当の食数が増加したことと、企業内食堂の運営受託部門において受託施設数が増えたことにより売上高は前年同期に比べ増加しました。しかしながら売上上昇に伴う人員の増加、及び時給者単価の上昇により人件費は増加し、また、ガソリン価格の上昇と配達車両の入替えにより車両費も増加し、セグメント利益は前年同期に比べ減少しました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間のセグメント売上高は39億2百万円（前年同期比4.1%増）、セグメント利益は1億83百万円（前年同期比2.2%減）となりました。

(食材宅配事業)

食材宅配事業につきましては、ケアハウスや福祉施設などへの食材販売を行う「ヨシケイキッチン」の施設数は増加しましたが、主力商品である一般家庭向け「すまいるごはん」については、新規顧客獲得のためのキャンペーンや子育て世帯向けのイベントに参加するなど販売促進に努めたものの、食材セットの販売数は前年同期を下回りました。

しかしながら利益面につきましては、野菜などの仕入価格が比較的安定して推移したことなどにより前年同期を上回りました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間のセグメント売上高は22億34百万円（前年同期比0.4%減）、セグメント利益は1億30百万円（前年同期比24.3%増）となりました。

（旅館、その他事業）

旅館「海風亭 寺泊 日本海」につきましては、新聞広告等の宣伝効果により一般の宿泊者数は大幅に増加したものの、旅行代理店の送客による昼食利用は前年同期に比べ減少しました。

定食屋「米どころん」につきましては、看板メニューの開発や、店舗ごとに居酒屋スタイルやサラダなどのビュッフェスタイルを取り入れるなど特色を出して好評は得ているものの、客数は前年には及びませんでした。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間のセグメント売上高は4億26百万円（前年同期比4.5%減）、セグメント損失は42百万円（前年同期はセグメント損失57百万円）となりました。

（2）財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末の資産合計は、前連結会計年度末に比べ1億50百万円減少し、166億22百万円となりました。これは主に、移転等に伴い投資その他の資産のその他に含まれている差入保証金が1億6百万円及び有形固定資産のその他（純額）に含まれている建設仮勘定が83百万円増加しましたが、現金及び預金が3億26百万円減少したことによるものです。

負債合計は、前連結会計年度末に比べ4億44百万円減少し、97億84百万円となりました。これは主に、長期借入金（1年内返済予定を含む）が4億71百万円減少したことによるものです。

純資産合計は、前連結会計年度末に比べ2億94百万円増加し、68億37百万円となりました。これは主に、利益剰余金が2億59百万円増加したことによるものです。この結果、自己資本比率は2.1ポイント上昇し、41.1%となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下、「資金」という）は、前連結会計年度末に比べ3億17百万円減少し、18億53百万円となりました。この主な要因につきましては、次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果取得した資金は4億82百万円（前年同期は1億42百万円の取得）となりました。

主な増加要因は、税金等調整前四半期純利益5億59百万円及び減価償却費3億8百万円であり、主な減少要因は、仕入債務の減少額2億50百万円及び法人税等の支払額78百万円によるものです。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果支出した資金は4億34百万円（前年同期は2億62百万円の支出）となりました。

主な減少要因は有形固定資産の取得による支出2億66百万円及び敷金及び保証金の差入による支出1億40百万円によるものです。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果支出した資金は3億66百万円（前年同期は7億44百万円の取得）となりました。

主な増加要因は、短期借入金による純増額2億円であり、主な減少要因は、長期借入金の返済による支出4億71百万円及び配当金の支払額58百万円によるものです。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、実績と今後の見通しを勘案し、平成30年5月14日の「平成30年3月期 決算短信」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,324,181	1,997,786
売掛金	1,153,092	1,179,415
商品	1,551,610	1,527,915
原材料及び貯蔵品	124,355	119,399
その他	432,843	532,310
貸倒引当金	△3,640	△2,249
流動資産合計	5,582,443	5,354,578
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	4,125,618	4,046,072
土地	3,478,042	3,478,042
その他（純額）	653,530	720,002
有形固定資産合計	8,257,191	8,244,117
無形固定資産		
のれん	323,287	288,463
その他	259,094	275,793
無形固定資産合計	582,382	564,256
投資その他の資産		
退職給付に係る資産	114,950	116,543
その他	2,250,944	2,355,593
貸倒引当金	△15,383	△12,604
投資その他の資産合計	2,350,511	2,459,533
固定資産合計	11,190,085	11,267,907
資産合計	16,772,529	16,622,486
負債の部		
流動負債		
買掛金	3,060,211	2,809,662
短期借入金	907,094	958,510
未払法人税等	111,547	249,365
賞与引当金	203,806	217,904
その他	1,670,362	1,713,068
流動負債合計	5,953,022	5,948,511
固定負債		
社債	600,000	600,000
長期借入金	2,313,080	1,990,400
リース債務	140,853	138,114
退職給付に係る負債	15,063	15,566
役員退職慰労引当金	140,310	120,940
資産除去債務	631,230	555,319
その他	435,519	415,828
固定負債合計	4,276,056	3,836,168
負債合計	10,229,079	9,784,680

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	801,710	801,710
資本剰余金	366,781	366,781
利益剰余金	6,013,879	6,273,736
自己株式	△751,653	△751,653
株主資本合計	6,430,718	6,690,574
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	106,581	144,058
退職給付に係る調整累計額	6,149	3,172
その他の包括利益累計額合計	112,731	147,230
純資産合計	6,543,449	6,837,805
負債純資産合計	16,772,529	16,622,486

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
売上高	25,346,801	28,359,504
売上原価	19,005,625	21,393,963
売上総利益	6,341,175	6,965,540
販売費及び一般管理費	5,915,124	6,455,394
営業利益	426,051	510,146
営業外収益		
受取利息	13	14
受取配当金	4,172	4,172
その他	45,776	51,542
営業外収益合計	49,962	55,729
営業外費用		
支払利息	7,778	9,804
その他	3,555	5,274
営業外費用合計	11,334	15,079
経常利益	464,679	550,796
特別利益		
固定資産売却益	—	200
受取保険金	—	16,541
特別利益合計	—	16,741
特別損失		
固定資産売却損	8,920	—
災害による損失	—	2,595
固定資産除却損	1,394	3,055
賃貸借契約解約損	977	2,523
特別損失合計	11,292	8,174
税金等調整前四半期純利益	453,387	559,364
法人税、住民税及び事業税	68,140	208,643
法人税等調整額	109,867	34,511
法人税等合計	178,008	243,155
四半期純利益	275,379	316,209
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	275,379	316,209

(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
四半期純利益	275,379	316,209
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	23,199	37,477
退職給付に係る調整額	△3,690	△2,977
その他の包括利益合計	19,508	34,499
四半期包括利益	294,887	350,708
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	294,887	350,708
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

（3）四半期連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：千円）

	前第2四半期連結累計期間 （自平成29年4月1日 至平成29年9月30日）	当第2四半期連結累計期間 （自平成30年4月1日 至平成30年9月30日）
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	453,387	559,364
減価償却費	268,184	308,055
災害損失	—	2,595
のれん償却額	1,119	34,791
役員退職慰労引当金の増減額（△は減少）	△313,400	△19,370
貸倒引当金の増減額（△は減少）	△1,474	△4,169
賞与引当金の増減額（△は減少）	9,408	14,097
退職給付に係る資産の増減額（△は増加）	△585	△1,593
退職給付に係る負債の増減額（△は減少）	△1,840	502
受取利息及び受取配当金	△4,186	△4,187
支払利息	7,778	9,804
受取保険金	—	△16,541
有形固定資産売却損益（△は益）	8,920	△200
売上債権の増減額（△は増加）	△31,147	△26,261
たな卸資産の増減額（△は増加）	44,052	28,650
未収入金の増減額（△は増加）	5,722	△16,346
その他の流動資産の増減額（△は増加）	△69,855	△83,382
仕入債務の増減額（△は減少）	△133,149	△250,548
未払消費税等の増減額（△は減少）	△6,854	28,373
未払費用の増減額（△は減少）	73,209	35,583
預り保証金の増減額（△は減少）	1,492	△9,807
その他の流動負債の増減額（△は減少）	35,605	23,947
その他	10,992	△61,392
小計	357,378	551,963
利息及び配当金の受取額	4,186	4,187
利息の支払額	△7,700	△9,531
法人税等の支払額	△211,081	△78,456
法人税等の還付額	55	104
保険金の受取額	—	16,541
災害損失の支払額	—	△1,929
営業活動によるキャッシュ・フロー	142,836	482,880
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△19,004	△19,000
定期預金の払戻による収入	10,000	28,000
有形固定資産の取得による支出	△189,250	△266,195
有形固定資産の売却による収入	—	200
無形固定資産の取得による支出	△33,619	△34,330
資産除去債務の履行による支出	—	△5,024
出資金の払込による支出	—	△10
敷金及び保証金の差入による支出	△31,934	△140,487
敷金及び保証金の回収による収入	2,520	3,186
長期前払費用の取得による支出	△754	△552
投資活動によるキャッシュ・フロー	△262,044	△434,213
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（△は減少）	1,150,000	200,000
リース債務の返済による支出	△44,892	△35,989
長期借入金の返済による支出	△301,270	△471,264
配当金の支払額	△58,900	△58,813
財務活動によるキャッシュ・フロー	744,936	△366,067
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	625,729	△317,399
現金及び現金同等物の期首残高	1,227,232	2,171,248
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,852,962	1,853,849

（4）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（追加情報）

（「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用）

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 平成30年2月16日）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

（セグメント情報等）

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間（自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日）

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント						調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	スーパー マーケット 事業	業務 スーパー 事業	弁当給食 事業	食材宅配 事業	旅館、 その他事業	計		
売上高								
外部顧客への 売上高	11,266,362	7,641,628	3,749,106	2,243,171	446,532	25,346,801	—	25,346,801
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	794	99	76,152	39	2,790	79,877	△79,877	—
計	11,267,156	7,641,728	3,825,259	2,243,211	449,322	25,426,679	△79,877	25,346,801
セグメント利益 又は損失（△）	251,862	202,577	188,094	104,870	△57,615	689,789	△263,738	426,051

(注) 1 セグメント利益又は損失（△）の調整額△263,738千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用△264,059千円が含まれております。全社費用は、報告セグメントに帰属しない全社共通費用であり、その主なものは管理部門に係る販売費及び一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失（△）は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（固定資産に係る重要な減損損失）

該当事項はありません。

（のれんの金額の重要な変動）

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

（重要な負ののれん発生益）

該当事項はありません。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間（自平成30年4月1日 至 平成30年9月30日）

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント						調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	スーパー マーケット 事業	業務 スーパー 事業	弁当給食 事業	食材宅配 事業	旅館、 その他事業	計		
売上高								
外部顧客への 売上高	11,335,369	10,460,588	3,902,271	2,234,886	426,388	28,359,504	—	28,359,504
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	1,020	119	85,907	83	2,737	89,868	△89,868	—
計	11,336,389	10,460,708	3,988,178	2,234,969	429,126	28,449,372	△89,868	28,359,504
セグメント利益 又は損失（△）	203,773	256,718	183,921	130,382	△42,294	732,501	△222,355	510,146

(注) 1 セグメント利益又は損失（△）の調整額△222,355千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用△222,674千円が含まれております。全社費用は、報告セグメントに帰属しない全社共通費用であり、その主なものは管理部門に係る販売費及び一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失（△）は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（固定資産に係る重要な減損損失）

該当事項はありません。

（のれんの金額の重要な変動）

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

（重要な負ののれん発生益）

該当事項はありません。